

NEWS

1999.11.20 (平成11年11月20日)

発行：財団法人 骨髄移植推進財団

発行責任者：小池欣一（理事長）

編集責任者：埴岡健一（事務局長）

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-12新宿Sビル8F

TEL. 03-3355-5041 FAX. 03-3355-5090

ホームページ <http://www.jmdp.or.jp>

走ったぞ、1万8500キロ
 ありがとう、1682人の登録者

もっと届け ドナーさんの善意！

骨髄バンクの広報のため行われた「骨髄バンク全国キャラバン」(主催：全国骨髄バンク推進連絡協議会)が9月18日にゴール地点の東京・早稲田大学大隈講堂に到着。ボランティアや支援者達がキャラバンカーと記念撮影。運動して全国各地で行われたキャンペーン登録会では1682名が新規に加わりました。(11ページに記事)

ドナー
座談会

私を必要と
 してる
 患者さんが
 きっといるはず



CONTENTS

- 移植経験者
インタビュー こんなに元気になりました.....2
 奥谷麻子さん・山崎揚久さん
- ドナー
座談会 私を必要としている患者さんが
 きっといるはず.....4
- データ 日本骨髄バンクの現状8
 ドナー数、移植数、コーディネート状況など

INFORMATION DLT開始、ドナー安全対策など.....10

元気になった 患者さんたち



今、話をしても鳥肌が立ってしまいます。自分が急性骨髄性白血病だと言われたときのことを思い出すと。

でも、今振り返ってみると、私自身よりも周りの方が大変だったんじゃないかなと思うんです。特に母親が。私にも一人息子がいますけれど、もしあの子が白血病だと知らされたら、と

想像しただけでも恐ろしい。母はまさにその状況に置かれたわけですから。

入院生活では何度も挫折しそうになりました。抗がん剤の副作用で吐き気やだるさがあり、食欲もなくなっていく。病室から電車の音が聞こえるのですが、「ここを抜け出して家に帰ってしまおうか」と何回思ったことが。骨髄移植

の話があつて、バンクに患者登録するという時も、精神的にすごく弱気になっていたときで、最初は「イヤ」と拒否してしまつたくらい。家族に説得されて渋々登録したんです。すぐに適合者が見つかったことを考えると、ドナーが見つからない患者さんもいるのに、なんて自分は弱気だったのだらうと思つてしまいます。

感謝という言葉では、 表現しきれない この気持ち



プロフィール
奥谷麻子(おくたにあさこ)さん
36歳。東京都在住。

96年冬に骨髄バンクを通じて移植を受け病気を克服。麻子さんの闘病を通じ、ご主人がドナー登録。現在、麻子さん自身も骨髄移植推進財団の登録ボランティアとして、さまざまな活動に従事する。

移植の日、子供に手紙を書くころと思って、途中で止めました。なんか遺書みたいな気がしたんです。「絶対また元気になって会える」それを信じて移植に臨みました。骨髄液が運ばれてきたときは、今でも忘れられません。私のために見ず知らずの方が提供してくれた善意がそこにある。感謝という言葉では表現しきれ

ない気持ちでいっぱいになりました。

今、登録ボランティアとして、週一回、骨髄移植推進財団の事務局でのお仕事を手伝わせていただいています。これは骨髄提供者の方、そして骨髄バンクに対するささやかな私自身の感謝の気持ちです。

現在は半年に一度、定期的に検査をするくら

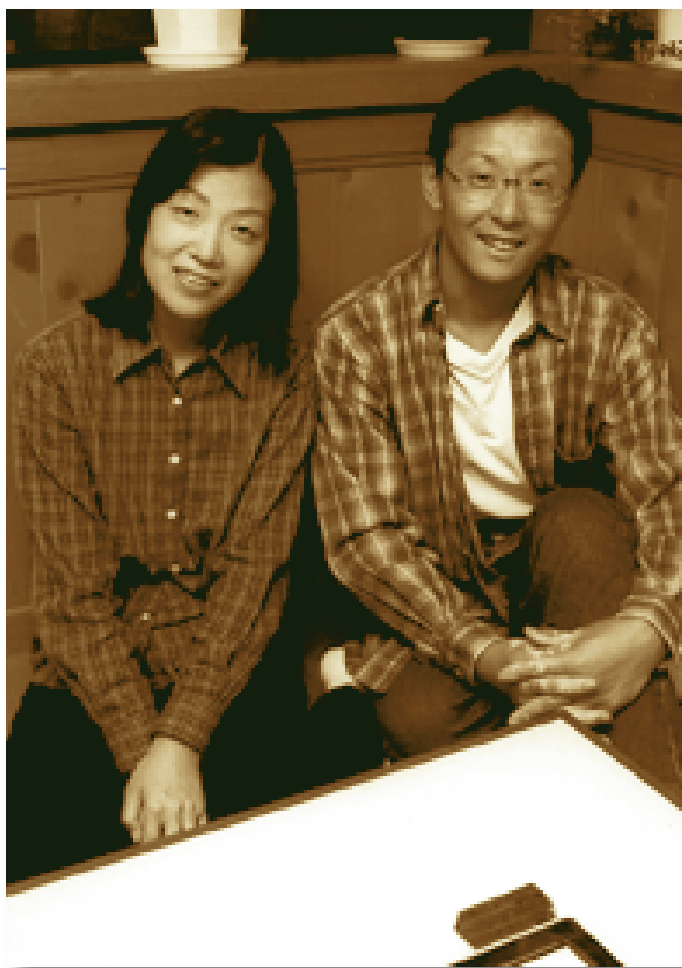
いで、すっかり元気になりました。先日、その定期検査で病院を訪ねたときに先生から、「ドナーの方でしたっけ」と言われたんです。それくらい、元気に見えたんでしょう。「まったく先生私のこと忘れたの」(笑い)、って思いながらも、嬉しかったですね。

慢性骨髄性白血病だと分かってから、骨髄移植を受け、そして今、こうして普通に生活できるよつになるまで、自分を支えてくれたものは何だろう。

初めて自分の病名を聞かされた時、ひどく落ち込みましたし、周りの人にも相当に迷惑をかけた。正直に言えば、最初は前向きに病気を

と闘う気持ちを持ってないでいたんです。ただ「死にたくない、死にたくない」。そう思っただけでした。そんな僕が、この病気を闘ったのは、絶対に治すんだ、と思えるようになったのは、骨髄バンクの活動を支えるボランティアの人々と出会い、多くの励ましをもらえたからです。その恩返しではありませんが、94年秋に移植

を受け、病気を克服してから、僕もボランティアの一員として骨髄バンクの活動をサポートしています。講演やシンポジウムなどの啓蒙活動の他、移植を前にした患者さんに、僕自身の体験を話したりすることもあります。僕が得た勇気を一人でも多くの患者さんに分け、共に闘っていきたく思います。



11月に結婚した、骨髄バンクを通じた移植経験者同士のカップル（奥さんの息子さんと）

僕が貰った勇気を 一人でも多くの 患者さんに



プロフィール
山崎揚久(やまざきのぶひさ)さん
32歳。茨城県在住。

94年秋に骨髄移植を受け、慢性骨髄性白血病を克服。現在、家業の割烹旅館を切盛りする傍ら、「骨髄バンクを支援するいばらきの会」事務局長として、講演など精力的に活動。その活動を通じて知り合った福島息子さん(95年に移植を受ける)と11月に結婚。二人三脚で家業とボランティア活動に取り組む。

発病から現在に至るまで、普通の人生では考えられない多くのことを経験しました。これほど自分自身と向き合うことなど今まででなかった。その意味では本当に多くのことを得たと思っています。

そして、僕はボランティアの活動を通して生涯の伴侶とめぐりあいました。

彼女も移植を経験した患者で、知り合ったのは彼女が移植をする前、体験者としてアドバイザーをするために入院していた病院を訪問したのがきっかけでした。若い女性だと聞いて下心があったなんてことは断じてありません(笑い)。何度かのやり取りを通じて、お互い、そういう気持ちになったというわけです(笑い)。

先日、早稲田大学大隈講堂での集会では、バンクを通じて移植を経験したカップルとして、壇上上がり皆さんの祝福を受けました。移植によって病気を克服し、結婚した僕らの姿が、他の多くの患者さんに勇気を与えることになるのなら、僕はとても嬉しく思います。

ドナー 座談会

コーディネーターの
きちんとしたサポートに
安心しました

壇岡 ドナー登録をなさった島田さんは、すでに骨髄を提供していらっしゃる山崎さん、原田さんのお二人に、まず何を聞いてみたいですか。

島田 何が一番大変だったか、ということですか。それを経験者の方からお聞きして参考にしたいですね。

原田 僕自身すごい崇高な使命感に燃えてドナー登録したわけではなく、献血の延長線のような感じなんです。で、登録しても自分が提供する確率は低いと思っていたんです。実際は、登録して2年後に適合者がみつかり、提供することになりました。しかしその時も、自分が大それたことをするっていう意識はなかった。だから経験者といっても、特別自分が他人と違つとは思ってないんですよ。大変だったことよりも、今日、こうして呼んでいただいたように、骨髄提供を通じてボランティアなど多くの方と知り合いになれた、そのメリットの方



提供を通じて
家族の愛の大きさを
感じました

山崎量子さん

としてる がきつといるはず

ドナー登録から骨髄提供にいたるまでには数多くのプロセスがあります。その間、提供者は何を考へ、何を感じたのでしょうか。ふたりの骨髄提供経験者の方と、まだコーディネートを受けたことのないドナー登録者に、コーディネーターを交えて、その過程を話し合っていました。

が大きいと思っているくらいです。

壇岡 提供に際してご家族など周囲はどんな反応でしたか。

原田 うちの家族は理解があるというか、「あなたの好きなようにやりなさい」という感じでした。

壇岡 山崎さんはどうでしょう。

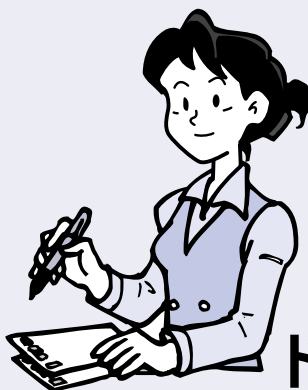
山崎 大変だったのは麻酔とか骨髄採取の痛みよりも、その以前、提供者に選ばれてから採取が行われるまでの体調管理でしたね。風邪をひいちゃいけないとか、横断歩道でもいつもより数歩下がって待つとか。もし自分の不注意で提供できなくなつたら、患者さんに申し訳ないと本当に心配でした。ですから、選ばれてから採取までが非常に長く感じました。採取日が決まった時はホツとしました。

原田 僕は採取までが長いとは思いませんでした。むしろ検査や家族への同意など、ひとつずつきちんとプロセスを経ていることで、とても安心でした。

壇岡 山崎さんの場合、ご家族の反応はどうでしたか。

山崎 うちの両親は当初は反対するつもりだったそうです。ただ両親が兄と話したと

コラム



知っておきたい
ドナーさんにとっての
最終同意から骨髄提供まで

日本骨髄バンクに登録いただいているドナーの方の数は99年9月末現在で、12万3402人。その内、骨髄移植を希望している患者さんとHLA(簡単にいうと白血球の型)が適合したドナーの方の数は累計で3万986人、約4分の1です。そして骨髄提供まで至られたのが2237人(9月末)となります(9ページのチャート参照)。

ドナー登録をいただいた方には登録の際にコーディネートの流れをひと通りご理解いただいたと思いますが、今回は最終同意から骨髄提供直前までを、少し詳しく説明してみましよう。

きに、兄が「普段世の中のために何もやってないあいつが、やりたいっていうんだから」って説得してくれたのです。兄は教師をしており、白血病の生徒がいたこともあって、骨髄移植に対する知識や理解もあつたのです。そのおかげで私も心配なく提供に臨めました。しかし、もし兄にも反対されていたら、私の意思が強かったとしても、相当迷ったんじゃないかな。その意味では大変なことというより、一番大切なことは周囲の理解じゃないかと思えますね。

骨髄提供では 家族や職場の理解を 得ることが大切

島田 本人の意思が強くても、やはり周囲の理解が得られずに断念される方もいるのでしょうか。
山中 いらっしやいます。というよりは、家族や職場の理解なしでは、なかなか骨髄提供は難しいことがあるのではないのでしょうか。ただ理解を得られないことが、即反対か、というところではないんです。ドナ

私を必要 患者さん

出席者

山崎量子さん

(97年 骨髄提供 会社員)

原田雄介さん

(97年 骨髄提供 鉄道会社勤務)

島田かおるさん

(98年ドナー登録 会社員・三児の母)

山中里美さん(コーディネーター)

司会進行

埴岡健一

(骨髄移植推進財団 事務局長)

ーの方ご本人の意思、その善意の気持ちはご家族も分かっているから、ご家族も分かっていらっしやってもただ心配なんです。でもその心配はある意味で当然だと思えます。

島田 コーディネーターがご家族を説得するということとは。

山中 それはありません。あくまで提供はご本人の自発的な意思によるものというのが基本です。もちろん、ドナーの方がご家族に説明するため、例えば「ドナーの貸し出しやパンフレットをお送りするなど、情報の提供はしています。できるだけ早くから

ご家族にドナー登録をしていることを話しておくことが、家族の理解を得るためには大切だと思えます。

埴岡 コーディネーターの役割はあくまでサポートということですね。

山中 適合者が見つかりドナーの方が3次検査を受けるところから、私たちコーディネーターが医師、地区事務局と連携をとってお手伝いします。そして、ドナーの方が無事に骨髄を提供し退院、日常生活に復帰することを確認するまで連絡を行ったりするのが私たちの役割です。

骨髄提供の最終同意

骨髄提供はドナーご本人の同意だけでできません。ドナーの方のご家族のご理解と同意が必要です。最終同意説明会はドナーご本人とご家族、担当のコーディネーターと調整医師、それに、第三者の立会人(弁護士など)の出席のもと行われます。第三者の立会人はこの説明会において、コーディネーター・調整医師が十分な説明を行い、ドナー本人とご家族が理解なさったかどうか、また、骨髄提供がドナー本人の自発的意思によるものかどうかを確認するために同席します。

説明について、十分ご理解いただけましたら、「骨髄提供に関する同意書」にドナーご本人とご家族の方に自筆署名と捺印をいただき、最終的な骨髄提供意思の確認いたします。

この署名捺印は、「患者さんに骨髄を提供します」という確認と、これからドナーご本人に肉体的・精神的な協力をいただくということをご家族の方も含めてご理解されたというご意思を意味するものです。

骨髄提供に関する最終同意が確認されると、骨髄の移植・採取日程の調整に移ります。患者さん側では「間違いなく骨髄提供が受けられる」という前提で骨髄移植の準備に入ります。最終同意には大変重要な意味があることをご理解ください。



今でも別に自分が特別なことをしたとは思っていません

原田雄介さん





提供者を待って 亡くなった知人の ためにも

島田かおるさん

健康の大切さを 見つめ直す 良い機会になった

山崎 先ほど山中さんが「家族の心配はあ
る意味で当然だと思っ」とおっしゃいまし
たが、私もそう思うんです。というのをも提
供を経験して感じたのが、家族の愛情の深
さだからです。採取が終わった後に担当の
医師の方が、母に「ありがとございまし
た」って言うてくださったんですね。その
時の母の嬉しそうな顔、多分あれは一生忘
れません。その時に初めて「ああ私のこと
すごく心配してくれてたんだ」って、深
い愛情を感じたんです。

島田 周囲の心配の一つが、採取にあたっ
て全身麻酔をかけることだと思います。実
際、経験されてどうだったのでしょうか。
原田 たしかにそうでしょうね。父も同意
はしてくれましたが、「内心では麻酔による
事故が心配だった」って言うてましたから。
僕自身は、今こうして元気であるわけです
から、何も問題はありませぬ。「はい麻酔
入ります」って言われて、意識が戻ったと
きには採取が終わっていた。その間、数時
間はあったのですが、僕の感覚的には
非常にあっけない（笑い）。意識が戻って
から麻酔が切れていく過程で、身体が思う
ように動かないのは辛かったです。それ
も層過ぎに採取が終了したのですが、夕方
には取れました。喉元過ぎれば、ではない
ですが、今はあの程度で済むのかな、とい
う印象です。

山崎 私も喉元過ぎれば、なのかもし
れませんが、採取後の辛さも今となっては
良い経験だったって思えてしまっんです
よ、健康のありがたさを知る上での。また
何でも前向きに考えるようになりました。
「この健康な身体があれば何だっってでき
るじゃない」って。
山中 多くの提供者の方が同じようなこと
をおっしゃいます。「健康の大切さを見つ
め直す良い機会になった」と。
原田 たとえば道で困っていた人がいる。
昔の自分、つまり入院して不自由を感じる
以前の自分だったら素通りしていたかもし
れない。そういう少しの変化はあるかもし
れませぬ。

退院の日にコンサート！



郷ひろみさんと山崎量子さん

壇岡 採取後の痛みなどはどうでした。
原田 腰に鈍痛を感じましたが、僕の場合
は退院後1週間くらいでは普通に戻りま
した。
山崎 実は、退院の日に私が大ファンの郷
ひろみさんのコンサートがあつて、先生に
は内緒で行ったんです。さすがに立ち上が
って手拍子というわけには行きませんでし
たが（笑い）。

採取に向けての日程調整について

ドナーの方の最終同意が確認されると、
患者主治医に通知するとともに、ドナーの
方の骨髄採取施設の選定に移ります。

骨髄採取は財団が認定した病院で行われ
ます。採取施設選定に際してはできる限り
ドナーの方のご希望に添うようにいたしま
すが、病院の空き室状況などで希望外の施
設になることもあります。また、採取施設
は患者さんの移植施設とは必ず別の施設に
なります。

骨髄採取日などではできる限りドナーの方
のご予定を尊重しますが、患者さんの治療
の関係で、ある程度、日程が限られる場合
がありますのでご了承ください。

骨髄採取前の準備について

採取施設では、採取予定日の約1カ月前
に、ドナーの方の健康を守り、安全な骨髄
採取に備えるため「採取前健康診断」を実施
します。この健康診断では、問診、診察、
血液一般検査に加え、X線検査、尿検査、
心電図、呼吸機能検査など、より詳細な検
査が行われます。また、同時に麻酔専門医
の診察もこの時行われることがあります。
そしてドナーとしての最終的な健康状態の
確認が行われます。

この健康診断でドナーの方の健康上やむ
を得ない事情が生じたり、新たな異常が発
見された場合には、ドナーの方の安全を最
優先し、採取施設の判断で骨髄採取を延期
または中止することがあります。逆に、患
者さん側の都合で移植採取日程が変更にな
る場合もあります。



山中里美さん
(コーディネーター)



埴岡健一
(骨髄移植推進財団 事務局長)

埴岡 退院したその日にコンサートっていうのもすごいな。クラシックならまだしも、郷ひろみでしょ。(笑い)。
山崎 自分へのささやかな褒美だと思ってましたので。
山中 退院後1週間くらいはゆったり過ごして欲しいんですけどね(笑い)。痛みはやはり個人差がありますが、アンケートによると1〜7日間くらい残るといっ方が多いようです。「あの出産の苦しみに比べれば」っておっしゃる女性の方もいらっしゃいます。
島田 そつですね。私も漠然とですが出産に比べればって思ってます。ところで骨髄採取のために必要な入院期間はどれくらいですか。1日で帰れるんでしょうか。
原田 1日では無理でしょう。僕の場合3泊4日、正直言って暇でした。おかげでたくさん本が読めました(笑い)。
山崎 私も同じですね。
山中 入院は採取の前日から前々日、退院は採取の翌々日というのが一般的な例です。4〜5日が目安になるでしょうか。
埴岡 入院にあたっての費用などもドナーさんの気になるところです。
山中 入院費用をドナーの方が負担することはありません。もちろん病院までの交通費も実費でお支払いしますし、入院にあ

つてはわずかですが、5000円を支度金として用意させていただいています。

骨髄提供に関わることは、自分自身のためでもある

埴岡 原田さんも山崎さんもドナー登録を継続されていますね。

原田 次の提供の機会がくることを待っています。冒頭でも言いましたが、自分は別にすごいことをやっているわけじゃありません。普通の生活の延長線に骨髄提供があると思っただけです。都市で生活していると、人間の心が荒んでいっているという気がしてならないんです。僕にとっては骨髄提供に関わることは、心を洗う作業みたいなところもある。つまり自分自身のためでもあるんですよ。

山崎 最初は骨髄を提供したことを人に言うのは嫌だったんです。何か自分が偉いことをしたのを自慢しているような気がして。でも最近、自分が話すことで少しでも人々の不安の解消や理解に役立つなら、話す価値があるのかなと思うのです。実際、ドナー自身の気持ちもクリアにならないと、まわりの家族も説得できないし、提供にきちんと臨めないですからね。



島田かおるさん(長女、ひかりちゃん)

山中 そう思います。ですからどんな小さな疑問や不安でも、「こんなこと聞いてもいいの」って思うようなことも、コーディネーターにお話してください。ひとつひとつ一緒に考えて解決していければと思います。

埴岡 色々話を聞いてきましたが、島田さんの提供の意思に変化はありませんか。
島田 変わりません。私は知人が白血病で亡くなったことをきっかけにドナー登録をしました。この間まで元気に笑っていた人が、こんなに簡単に逝ってしまう。その現実を目にしたときに、自分の健康を大切にしたい、そしてそれを自分のためだけに、何かに役に立てたいと思ったんです。今日お話を聞いて、さらにその思いを強くしました。私を必要とする患者さんがきつというはずだった。

最終的に採取が決まりますと、提供する患者さんの体重などをもとに骨髄採取予定量が決定され、必要に応じて自己血採血の計画が立てられます。自己血採血とは、骨髄採取にともなう貧血を防ぐため、あらかじめドナーご本人の血液を採血・保管し、骨髄採取時にその血液をお返しするものです。

自己血採血量は骨髄採取予定量をもとに計算されます。自己血採血量が多い場合は2〜3回に分けて採血することがあります。また、骨髄採取予定量が少ない場合は自己血採血を必要としない場合もあります。なお、自己血採血終了後気分が悪くなったり、ふらついたりする場合がありますので、特にバイクや車での通院はしないよう、お願いします。

また、採取日が近づきましたら、体調を整えていただくとともに、万一、病气・事故に遭われた場合には、早めに担当地区事務局あてにご連絡くださいますようお願いいたします。

通常、採取予定日の1〜2日前には入院し、最終的な採取の準備に入ります。

お知らせ

登録ボランティアを募集しています

骨髄バンクの応援をしていただく「登録ボランティア」を募集しています。東京都新宿区の財団事務局でお手伝いいただく「財団活動参加タイプ」と、各地区の骨髄バンク支援団体をご紹介する「各地支援団体紹介タイプ」があります。fax03-3355-5090まで、「登録ボランティア説明書希望」と、住所と氏名を記入のうえお送りください。折り返し資料をお送りします。また、常時ではありませんが、当財団では正職員や準職員を募集しているときがあります。ご関心のある方は事務局までお問い合わせください。

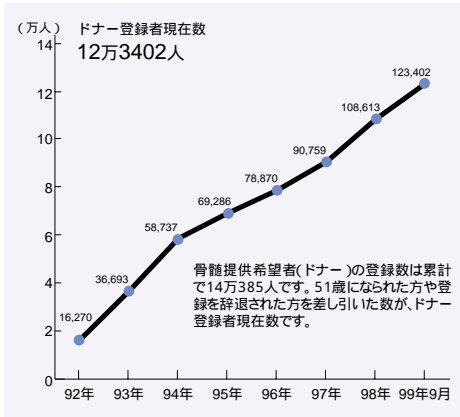
日本骨髄バンクの現状



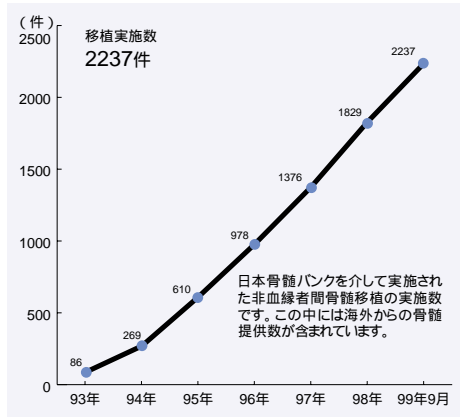
日本骨髄バンクは事業開始からまもなく8年を迎えます。本年5月には骨髄バンクを介した移植例が2000例を突破。9月末現在で2237件に上りました。

また、新規ドナー登録者も本年に入り、毎月2000人前後の方にご登録いただいています。ドナー登録をいただいた方、また骨髄をご提供いただきましたドナーの皆様にご心から感謝申し上げますとともに、現在までの骨髄移植・採取の状況をご報告いたします。

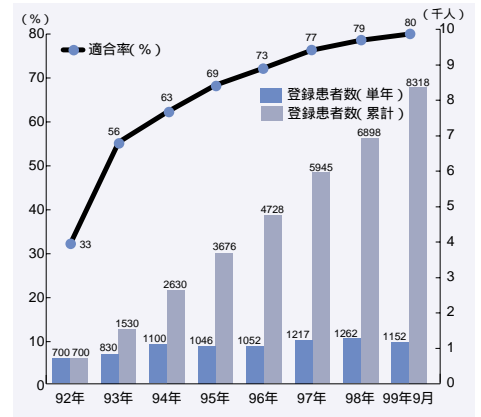
ドナー登録者数推移



移植実施数推移



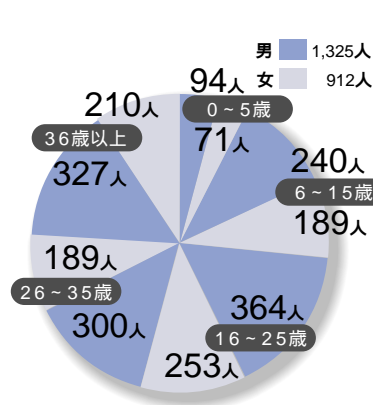
適合率の推移



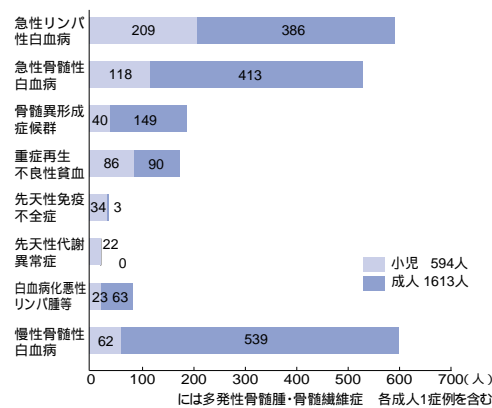
非血縁者間骨髄移植の状況 (累計2237件の内訳)

移植患者の状況

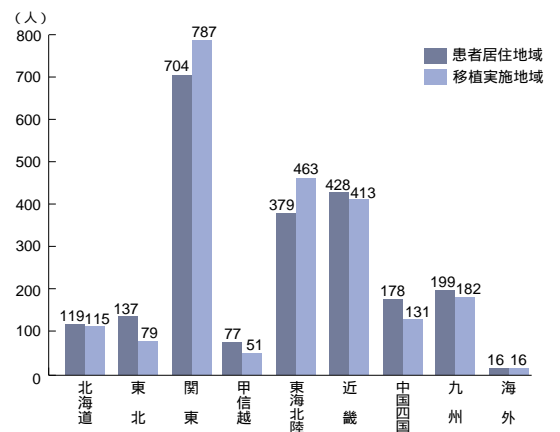
移植患者年齢・男女別



移植患者疾患別

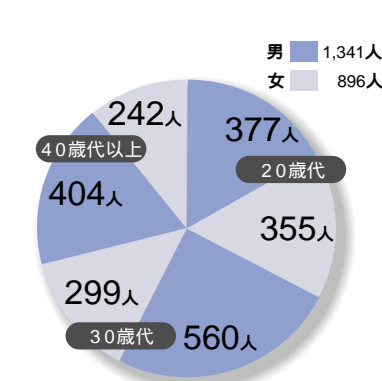


移植患者居住地および移植実施地域所在地別

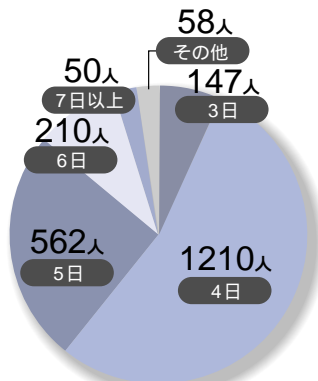


提供者(ドナー)の状況

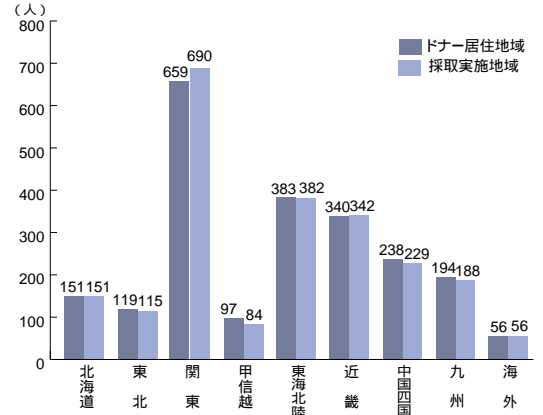
骨髄提供者年齢・男女別



骨髄提供者の入院日数



骨髄提供者居住地および移植実施地域所在地別



放射線被曝患者の救命に協力

日本骨髄バンク（骨髄移植推進財団）は、9月30日に茨城県東海村の核燃料加工施設で発生した放射線被曝事故に関して、被曝患者の患者登録を受け付け、緊急コーディネートを実施することといたしました。これは、1）被曝者の人命救助、2）国からの要請、3）原子力技術の利用という今日的な社会環境のなかで発生した事故である点 など、さまざまな側面を総合的に検討した結果、非常時の災害対策であるとの認識から、緊急避難的に被曝患者へのコーディネートを受け入れ、当財団に課せられた社会的責任を果たす必要があるとの結論に達したからです。非常時との位置づけですので、骨髄バンクの理念である公平性、公益性、中立性はこれまでどおり維持されます。

ドナー登録者のみなさまには、被曝患者のためのコーディネートが実施に移されたことをご承知おきいただきたいと思います。なお、一般のコーディネートの原則どおり、この被曝患者へのドナー候補となっている方にも、どの患者さんのためのコーディネートであるかはお知らせいたしませんので、そのことをご了解ください。この被曝患者のためにできるだけ迅速なコーディネートを行うことを試みますが、ドナー候補者の安全確保、自発的な提供意思の確保、プライバシーの保持という原則は遵守してまいります。

一方、すでに登録されている患者のみなさまには、この緊急コーディネートが他の登録患者の方に不利になることがないをご理解願いたいと思います。骨髄バンクは「公平性」を旨としており、患者さんを区別することはありません。今回は、災害による非常時との位置づけから、財団理事や各委員会委員などからなる緊急会議によって、受け入れを決定したものです。本来、早期の骨髄移植を希望されている患者さんすべてに公平に、特別に迅速なコーディネートを行うことが理想であることは強く認識しています。一人の被曝患者のために、特別に迅速なコーディネートを実施することはできても、1775人（9月末登録患者数）の患者さんすべてのために、それを実行することは、残念ながら現在の組織力と予算では難しいのが実態です。

当財団では患者登録から移植までの期間を短縮するための改革努力を加速しています。しかし、そのためには巨額の資金が必要となります。社会の各界、各層からのご支援により、一日も早く体制を充実できますよう切に願っております。なお、今回のコーディネートの経験を、コーディネート業務全般の迅速化のために活かしてまいります。

患者および、骨髄提供者（ドナー）のコーディネート状況

【1999年9月末現在・累計】

ドナー登録者数
12万3402名

（2次検査終了ドナー数：11万4155名）
年齢超過や、登録辞退者等を除いた有効登録者数です

患者登録者数
8318名

（患者登録現在数：1775名）

HLA検索

HLA適合ドナー数
3万0986名

HLA適合者数は、HLA - A、B、DR座が
適合したドナーの累計数です

HLA適合患者数
6714名

HLA適合者数は、HLA - A、B、DR座が
適合した患者の累計数です

3次検査実施ドナー数
1万1141名

3次検査を実施したドナーの累計数です

3次検査実施患者数
4229名

3次検査を実施した患者の累計数です

最終同意・移植日程調整
2617名

最終同意・移植日程調整数は、ドナーの最終同意が確認され、
移植・採取の日程調整に入った、患者・ドナーの組み合わせ数です

骨髄採取・移植実施数 2237名

【フォローアップ】

注）骨髄移植実施数以外のドナー登録者数、登録患者数はコーディネートが中止となった例数を含む。

コーディネート期間短縮策、第一弾に着手

これまで平均250日以上かかっていた患者登録から骨髄移植実施までの期間を短縮するために、従来のコーディネートの各手続きを同時並行で実施するなどの見直しを行い、全体的な期間短縮を図ります。

具体的には、以下のような手続きの変更を行います。

並行してコーディネートを進められるドナー候補者の人数を従来の3名から5名とする。ドナー候補者が検索された時点で、すぐにドナー候補者への接触を開始する（従来は、ドナー候補者が検索された時点で、主治医へ結果を報告し、主治医からのコーディネート開始の意向を確認したのち、ドナー候補者への接触を開始していた）。

患者さんのHLA確認検査を、原則として患者登録後直ちに実施する（従来はドナー候補者の適格性の確認検査日程が決定してから行っていた）。

また、急いで移植を行う必要のある患者さんのために、100日以内に移植が実施できるような、コーディネートの手続きについても検討を行っております。

ご承知のとおり骨髄移植は時間との闘いという側面があります。移植を待っている間に病状が悪化し、「チャンス」を得られないままに亡くなる患者さんが、まだまだたくさんいらっしゃいます。当財団の試算では、移植までにかかる平均日数を50日短縮すればさらに約50名、100日短縮すればさらに約100名の患者さんに移植の機会が生まれる計算になります。そこで、迅速化を最重要課題のひとつに掲げています。

期間短縮のためには、当財団が改善活動を重ねなければならないことはもちろんですが、全体の時間を縮めるためには、患者主治医の先生（事務連絡やドナー選定の迅速化、病室の素早い確保...）など関係各者のご協力も欠かせません。ドナー候補者の方にも、骨髄移植可能期間が限定されている患者さんがいらっしゃることをご理解いただくと幸いです。

●ドナー検索方法が変わります

骨髄移植を必要とする患者さんは、骨髄バンクに患者登録されたのち、日本赤十字社中央骨髄データセンターにてHLA型の適合するドナー候補者の検索を実施しておりますが、この検索方法が本年末改訂される予定です。

主な変更点は、従来の自動的にドナー候補者が選択される「自動選択方式」に加え、ドナー候補者のリストからコーディネートを行いたいドナーを随意に選択できる「主治医選択方式」が可能となることです。

この主治医選択方式では、ドナー候補者の血液型や体重、居住地域などHLA

●DLT（ドナーリンパ球輸注）について

前号でもお知らせいたしました、骨髄バンクのドナーから移植を受けた患者さんで、白血病の再発や、EBウイルスによるリンパ腫などを起こした患者さんに対して、ドナーのリンパ球（白血球の一部）がもつ免疫機能によって、これらの合併症を治療する、DLT（ドナーリンパ球輸注）を本年末より、正式に開始することといたしました。

これまでも、EBウイルスによりリンパ腫を起こした患者さんに対しては、対象となるドナーの方に200^{ng}程度の全血の提供をお願いしてきた経緯がありますが、今回の本格的な開始に伴い、白血病などの再発に対する、リンパ球成分の分離採血も骨髄提供ドナーの方をお願いさせていただくことがあります。

いずれの場合においても、ドナーの自由意思の尊重と安全の確保、またブ

型以外の要素を重要視したドナー選択が可能となります。ただし、主治医選択方式は、自動選択方式に比べ、複数のドナー候補者のリストからドナーを選択する手続きが加わるため、移植までの期間をできるだけ短縮したい場合には、自動選択方式が好ましいといえます。

このドナー選択方式の改訂については、コーディネート期間短縮のための手続き変更の内容（9ページ右下記事参照）とあわせ、本年度末発行予定の「日本骨髄バンクコーディネートマニュアル（改訂版）」にその詳細が記述されます。

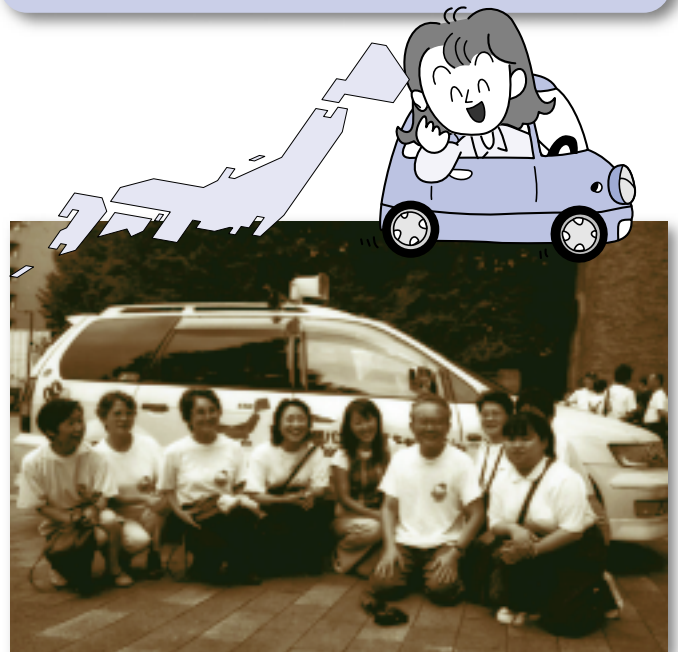
ライバシーの保護につきましては、最大の注意を払い、これを損なうことのないよう、慎重な手続きを取らせていただきます。

安全確保については、献血の基準に準じ、これに合致しない方には、採血をお願いいたしません。

なお、DLT採血をお願いするのは骨髄提供ドナーのごく一部になると予想されますが、骨髄提供までのコーディネート過程でDLTに関して説明させていただきます、ご協力いただけない方につきましては、事前に断ることができると手続きを講じさせていただきます。

また、すでに骨髄をご提供された方で、DLTのための採血にご協力いただけない方につきましては、その旨、財団にお手紙などでお伝えいただきたくお願います。

「骨髄バンク全国キャラバン」ボランティア2000人の力で全国47都道府県を踏破！



数百年ぶりの猛暑が全国を襲った今夏、身も心も暑いキャラバン隊が全国を踏破し、熱い感動を巻き起こしました。

日本骨髄バンクでの移植2000例達成を記念し、骨髄バンクの啓発とドナー登録30万人への願いを込めて行われた「骨髄バンク全国キャラバン」（主催：全国骨髄バンク推進連絡協議会 共催：各地支援ボランティア団体）は、7月18日（日）北は北海道、南は沖縄から出発し、全国すべての47都道府県を巡って9月18日（土）、ゴールの東京都・早稲田大学大隈講堂に無事到着。2台のキャラバンカーの走行距離は、計1万8445kmにもおよびました。

各地では都道府県知事と議会議員あてのメッセージ伝達、街頭宣伝や各種イベント等を開催され、連動して開催された骨髄ドナーキャンペーン登録会への協力等を行っていただきました。キャラバン隊の訪問地では、数多くのマスコミ報道が行われ、骨髄バンクへの社会的理解が広がりました。また、知事等への面談も実現するなど、都道府県担当部局の取り組みを促進する機会ともなりました。

この全国キャラバンの企画から実際の運行と各種イベント運営は、2000名ものボランティアの方々の力で実現したものです。ご参加ご協力されたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

●ドナーの安全をさらに高めていきます

当財団では、本年4月より、より安全な骨髄採取を実施するために、ドナー安全委員会の構成を強化しました。

業害等再発防止システムに関する研究会の座長を勤められた黒田勲氏（元早稲田大学教授、現日本ヒューマンファクター研究所長）や「ガン回廊の朝」「マッハの恐怖」などの著書で知られるノンフィクション作家の柳田邦男氏、NHK解説委員の迫田朋子氏らを新たに委員に迎え、骨髄採取時の不慮の事故を未然に防ぐため、医学的な側面のみならず、骨髄採取をめぐる制度、環境、人的な側面からも安全性を向上するための方策を検討しています。

具体的な対策としては、ドナーからの骨髄採取上限量の計算方法の変更があります。

これまでは、ドナーの方からいただく骨髄液の採取上限量は、ドナーの方の体重（kg）×200ccとしてきましたが、貧血傾向の見られる方から上限量の骨髄液を採取することは、ドナーの方の貧血状態を増悪させ、日常生活への復帰を遅らせてしまう恐れがあります。

今後は、ドナーの方の採取前健康診断のときの血液のHb値（ヘモグロビン、色素素量）に応じ、骨髄液の採取上限量を変化させることといたします。

例：ドナーの体重が

50kg Hbが12.8mgの場合

これまでの骨髄液の採取上限量

50kg×200cc=1,000cc

新しい骨髄液の採取上限量

50kg×150cc=750cc

また、従来より、各採取認定病院に対して行っていた、使い捨ての骨髄採取針使用の推奨、自己血保管体制の強化要請をさらに徹底する方針です。さらに骨髄採取病院の認定基準を段階的に強化することとし、麻酔科医師の勤務体制、自己血の採血、管理、輸血体制、感染症防止体制について、それぞれ基準を定め、現在認定されている採取病院にこの基準を通知するとともに、この条件を満たさず

う各病院に体制整備を指導していきます。なお、より安全な骨髄採取を実施していくためには、骨髄採取の採算性も無視できないことから、国に対し、骨髄採取の保険点数の増加も併せて要望してまいります。



「ブルーナポストカード」ができました

これまでのドナー登録ご案内リーフレット「Gift of Life (ギフトオブライフ)」に代わって、新しく「ブルーナポストカード」ができました。デザインは「チャンス」でおなじみの「ディック・ブルーナ氏」のかわいいイラストで、点線部分で切り取るとポストカードになります。街頭などで人目をひきそうなデザインです。ご希望の方は、財団・広報渉外部までご連絡ください。



たくさんのご登録、ありがとうございました

全国キャラバンが開始された7月18日から9月15日までの約2カ月間の「骨髄ドナーキャンペーン登録会」は全国38都市で45回開催され、ドナー登録者数は合計2203人でした。

このうち全国キャラバンに連動した登録会は28都市で35回行われ1682人の方にドナー登録をいただきました。この2カ月間のドナー登録者の全体に占めるキャンペーン登録会での登録者数は、約4割を占めるまでになりました。特に9月15日（敬老の日）東京都内5カ所において実施された登録会では、実に671人の方に登録いただき、これまでのキャンペーン登録会の記録（1日1回177人）を大幅に書き換えました。



今回のキャラバンに連動して、はじめて骨髄ドナーキャンペーン登録会を開催していただいた都市も多く、担当の財団職員が手分けして登録会開催前の準備や、登録会当日の運用などで全国を駆け巡りました。ご協力いただきました、全国の関係者の方に御礼申し上げます。

「友情Friendship」が演劇になりました

映画化され、感動を呼んだ「友情Friendship」が「友情Friendship～秋桜のパラード」として演劇になりました。東京に転校してきた白血病の少女あゆみ（14歳）が周囲の人々の温かな愛につつまれ、クラスメートとの友情を育んでゆく物語です。

期間は1999年11月11日から2000年2月22日まで、会場は東京・港区の「シアターVアカサカ」にて。

お問い合わせは「愛のチャリティー劇場」
実行委員会事務局 TEL 03 - 3588 - 0896まで。



公共広告機構(AC)の新キャンペーン「命の恩人はあなただったのかもしれない」篇が開始

骨髄バンクの社会的認知度を高め、ドナー登録者を増やすためには、日常的に社会へのPRが欠かせません。とりわけ、テレビ・ラジオ、新聞・雑誌などのマスメディアで取り上げていただくことが最も有効な普及広報といえます。

社団法人公共広告機構(AC)は、広告が社会に果たしている機能を生かし、社会的テーマの啓発を目的として活動されています。骨髄バンクの啓発キャンペーンは、1993年からテーマの一つとして毎年継続していただいております。骨髄バンクの社会的理解とドナー登録者増大の原動力となっています。

今年の新キャンペーンは、昨年夏、骨髄移植を受け、今は元気に学校へ通っている「もえちゃん」が2年ぶりにテレビ・ラジオに登場です。もえちゃんの「ありがとう」の言葉に続き、女優の吉永小百合さんのナレーション「命の恩人はあなただったのかもしれない。彼女の笑顔の輪を6000人の患者さんへ！力を貸して下さい、ドナー登録30万人を」が優しく、そしてしっかりと訴えてくださっています。

吉永小百合さん、もえちゃんのお2人は、前回にひきつづき、全くのボランティアとしての出演です。10月上旬から新CMが開始され、骨髄バンクへの問い合わせも大幅に増えています。ドナー登録30万人に向けて、大きな力を発揮するものと期待されます。なお、ポスターも新CMと連動し「もえちゃん」に登場いただきました。



「骨髄バンク推進全国大会'99 in 広島」のお知らせ

ドナー登録者数30万人をめざして、毎年12月の骨髄バンク推進月間に開催している「全国大会」。今年は「国際平和文化都市」広島で開催します。

本年も、地元の皆様の多大なるご協力をいただいで開催の予定です。どなたでも参加できます(参加無料)。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

あわせて18日(土)・19日(日)には絵画展「いのちの輝き展」、19日(日)には映画「友情」の上映会と、骨髄ドナーキャンペーン登録会が開催される予定です。

骨髄バンク推進全国大会'99 in 広島

1999年12月18日(土) 15:00~18:00

会場：中国新聞ホール・大ホール

広島市中区土橋町7-1

(広島平和公園より徒歩3分)

主催：(財)骨髄移植推進財団

共催：広島県、広島市、NPOひろしま骨髄バンク、つばさの会

全国大会に関するお問い合わせは、

TEL 03 - 3355 - 5041 まで。

本紙は、日本赤十字社のご協力により、ドナー登録者の皆様にお送りしております。送付を希望されない方や、住所、氏名に変更のあった方は、登録先の骨髄データセンターへお知らせください(連絡先は封筒に記載されています)。なお、本紙はこれまで各骨髄データセンターから送付してありましたが、厚生省・日本赤十字社・骨髄移植推進財団が協議し、ドナー登録者の皆様の住所、氏名等の情報漏洩防止には万全を尽くして、今回からは骨髄移植推進財団が東京から一括して発送しています。

日本小型自動車振興会からの補助について

本年度も、普及啓発ポスター・パンフレット・リーフレット「オートレース公益資金」の補助により発行しています。

ご協力いただいております

以下のパソコン通信サービスには、骨髄バンクのコーナーがあります。

@nifty GO MARROW
ビーブル GO MARROW
PC - VAN JMARROW

お問い合わせ・資料請求

日本骨髄バンク フリーダイヤル 0120-445-445 <http://www.jmdp.or.jp>